

【実践報告】

教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校）の報告

広島文教大学教育学部

教育学科 教授 佐伯 育郎

教授 村上 典章

1 はじめに

本科目は、小学校教員志望者が実際の教育現場に出て行う4週間（20日間）の実習である。これまでの教育実習Ⅶや教育実習Ⅰにおける学びを生かして、学生自身が実習校の児童を対象とした実際の授業を担当する。この実習を通して、子どもの実態を理解し、現場の教員と小学校の実態、地域との関係等々を体験的に理解するとともに、教師としての使命を自覚し、教育に対する意欲を高め、教師として必要な資質能力の向上に向けて自己の学修課題を明らかにすることを目的とする。

2 実施のスケジュール

| 項目 | 時期 | 主な内容 |
|---------------------|---|--|
| 事前学修 (学内) | 4月～5月 7月～8月 | <ul style="list-style-type: none">・実習校から教育実習受け入れ通知書が学生サポート課へ届く。学生サポート課に出向いて確認した後、実習校へ電話でご挨拶をする。・教育実習事前説明会に参加し、教育実習Ⅱ・Ⅲの意義、目的、心構え、手続き等を再確認する。教育実習記録を受け取り、記述方法や書類などの提出方法について理解する。・実習校への事前訪問により、指導担当教諭などから、配属学年、配属学級の児童の実態や、教育実習の全体計画、実習の事前課題などを確認する。教育実習出勤簿や教育実習評価票などについて説明し、実習校へ提出する。 |
| 本実習 20日間 (学外) | 9月～12月 | <ul style="list-style-type: none">・実習の内容は、実習校により計画される。実習中は教育実習日誌等の記録を取り、小学校教諭の職務等についての理解を深める。・主な学修課題として、①教育の理論と実践の一体化②基本的教育技術の習得③発達期にある子どもの理解④教育的人間関係における相互作用についての学習⑤教育者としての自覚の高揚、が挙げられる。観察・参加はもとより、実習授業に関しても万全の準備をした上で意欲的・主体的に取り組む。 |
| 事後学修 (学内) | 10月～1月 令和元年度は 12月3・6・12 日5コマに実 施。タイトル は“3+7=10 ～みんなで充 実” | <ul style="list-style-type: none">・各自の教育実習を振り返り、実習校から返却された教育実習記録を読み返し、加筆・修正をしてまとめ直す。校長、指導担当教諭からの所見にも目を通した後、教職センターに再提出する。・教育実習記録をもとに実習校での学びを振り返り、教育実習報告会用のレジュメを作成する。提出されたレジュメを印刷・製本し、教育実習報告書を作成する。・教育実習実行委員会を中心に、教育実習報告会を企画・運営する。・実習報告会では、学生が主体的に設定したテーマに基づき、小グループに分かれて討論・発表を行う。他学年の学生や教員も参加し、議論に加わる。令和元年度では、1回目：授業中の工夫（実習校の教員の実践）、2回目：授業中の工夫（学生自身の実践）、3回目（実習校の教員の学級経営）をテーマとして議論した。・報告会終了後、振り返り冊子を作成・発行することで教育実習のまとめとし、今後の学びに生かす。 |

3 活動の概要

(1) 実習授業・研究（査定）授業の主なテーマ等（学生の報告資料より抜粋）

| 教科名 | 対象 | 単元・題材名 |
|------|------|-------------------|
| 国語 | 第1学年 | うみのかくれんぼ |
| 社会 | 第4学年 | 地域の発展に尽くす |
| 算数 | 第4学年 | わり算の筆算を考えよう |
| 理科 | 第4学年 | 物の体積と温度 |
| 音楽 | 第3学年 | ゆかいな木きん |
| 図画工作 | 第2学年 | 思い出をかたちに |
| 体育 | 第2学年 | マット遊び |
| 道徳 | 第2学年 | 黄色いベンチ |
| 総合 | 第6学年 | 私の生き方 |
| 外国語 | 第1学年 | 小文字のアルファベットをみつけよう |

(2) 教育実習を通して学んだこと（学生の報告資料より抜粋）

・配属クラスの学級経営

のびのびと自分の個性を発揮し、笑顔が絶えない学級だった。1年生は安心安全に学校生活を送る基盤を作っていると教えていただいた。だからこそ、体調管理や登下校指導には気を付けて指導され、水分補給やトイレなどの確認は欠かさず行っておられた。朝の会のスピーチでは、教師が具体的に話せるように配慮されたり、児童同士で質問や受け答えできるよう支援されたりしていた。また、話す前には合図をして、聴く体勢を作っておられた。コミュニケーションの基礎を作っておられると感じた。（配属：第1学年）

・真似したい実習校の先生方の指導法・工夫とその理由

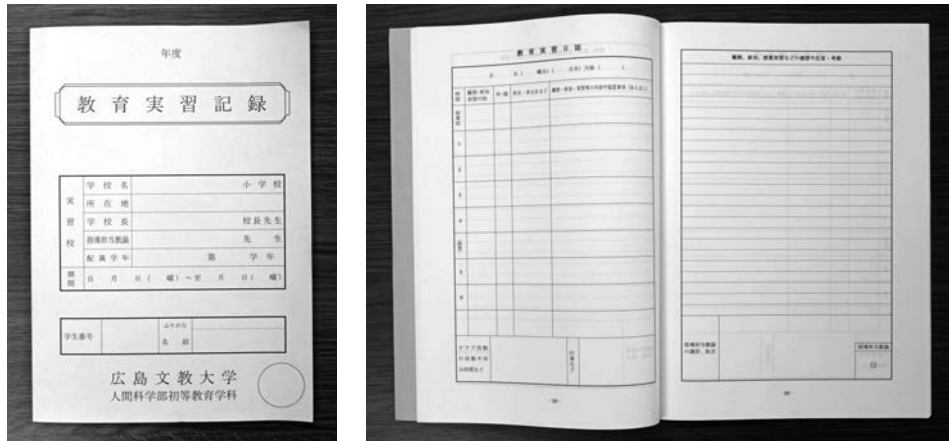
1時間の中で少なくとも一度は、発表者を意図的に指名するということがされていた。自分の考えをすぐにまとめられる児童と時間がかかる児童との差が大きく、手を挙げる人が固定化していたが、その児童をすぐに指名せず時間を置き、取って手を挙げていない児童を指名することで、発表者が固定化されず、全員が授業に参加することができていた。私は、手を挙げてくれた児童をすぐに指名してしまい、発表者を固定化させてしまうことがあったので気を付けたい。（配属：第3学年）

・「私ならこうしたい」と考える自身の指導法・工夫とその理由

私は、授業で使用するワークシートの形式や配付のタイミングを工夫したい。形式については効果的な学習のために何を書かせるべきか、どこまで書かせるのかなど児童が書く量を配慮して作成しなければならないし、配付するタイミングは板書を写すだけでなく考えさせたい内容によっては時間との兼ね合いがある。そのため、授業構成を練る中で自然な流れで学習できるようにするための配付のタイミングを意識したいと考えた。（配属：第4学年）

4 成果と課題

大学名の変更に伴い、教育実習記録を改訂したが、担当教員の確認が十分に反映されず、落丁があった。不足分のページを印刷し、教育実習事前説明会において別途配付することで対応したが、次年度は改善していきたい。例年通り、教育実習Ⅱ・Ⅲ担当教員2名で教育実習記録の閲覧・確認を行った。実習生による記述、指導担当教諭の所見など、今年度も総じて充実した内容であった。指導担当教諭の負担を軽減するために、教育実習記録の日誌については、指導担当教諭の講評・助言の欄を小さくするか、記述欄を削除して印のみにすることも検討したい。

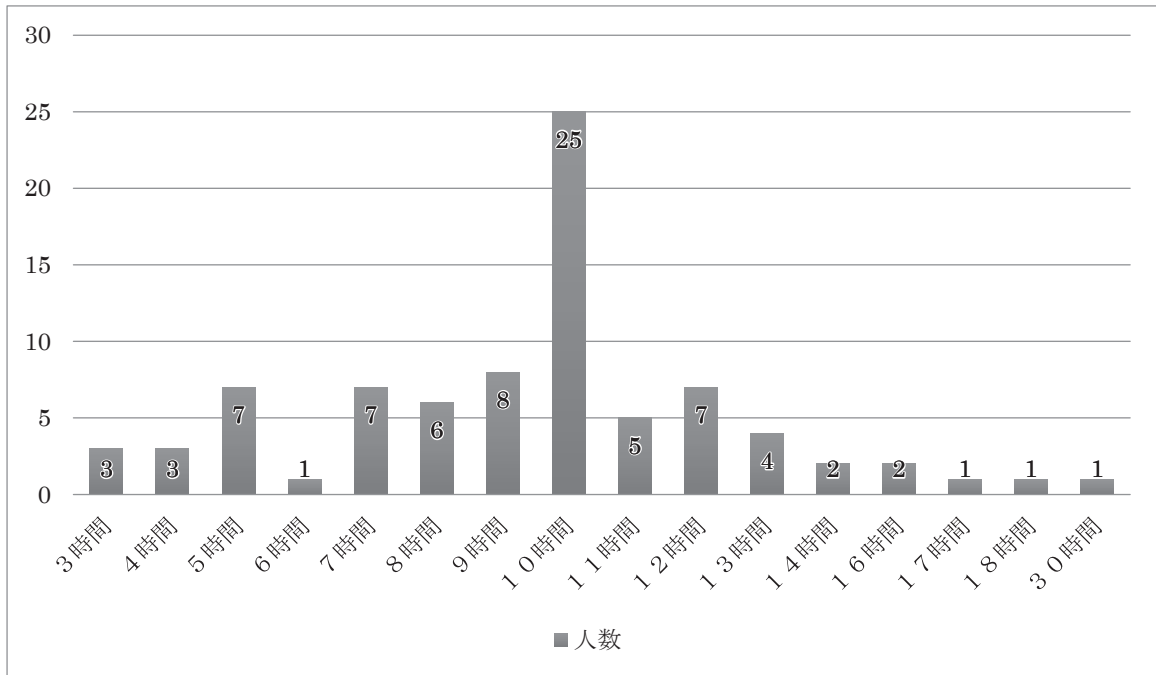


【教育実習記録（小学校）】

教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校）における実習校については、学生の希望を尊重し選定している。本学が位置する広島市では、広島市立学校教育実習要項に従って、主に学生の出身校において教育実習を行っている。実習期間中は、教職センターの運営委員会を中心に教員が実習校に伺い、受入に対する挨拶と授業実習の参観などを行う巡回指導を実施している。広島市以外の広島県内も同様である。本学には附属小学校がないこともあり、広島県・市以外の自治体出身の学生についても、出身校での教育実習の実施が多い。出身自治体で教職に就くことを希望している学生が多く、教員採用試験の学修に先駆けて地域の教育や児童の実態などを知る上でも意義があるため、本学では従前より学生の希望を優先している。

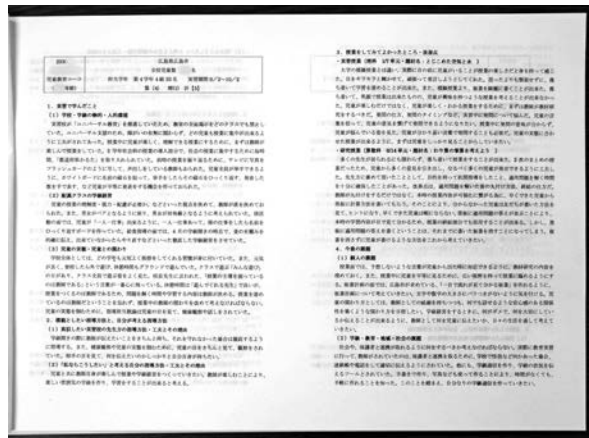
今年度からは、広島県内だけでなく、広島県外においても、上述の担当教員が巡回指導を行った。10月から後期の授業が開始されるため、授業に支障がない9月中に県外（四国、九州、島嶼部を除く）の巡回指導を行うとともに、10月以降は実習校への電話での巡回指導のほか、担当教員によるFaceTimeを活用した遠隔教育的な実習生への指導・助言も行った。昨年度までは、県外の実習生に対する指導が手薄になっていることが否めない状況であった。県外の実習生への指導を充実させるため、今後もよりよい指導の方法を模索していきたい。なお、今年度は実習生83人中、広島県内の実習生は43人（51.8%）、広島県外の実習生は40人（48.1%）であった。巡回指導教員用の巡回指導マニュアルも作成した。

実習授業の時間数は通常10時間程度と学生に指導しているが、実習校の事情もあり3時間から30時間までの開きがあった。グラフ化すると、次のようになる。



【令和元年度・教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校）における授業実習の時間数（初等教育学科37期生）】

実習報告会実行委員は、例年同様入念な準備を行い、レジュメ作成の際には実習期間を考慮して、所属ゼミナール毎の締切日を設定するなど、実にきめ細かな運営体制であった。学生による記述の差もそれ程大きくはなく、実習報告会までに提出できなかった学生も見られなかった。実習報告書の内容は充実しており、他学年の学生については今年度はじめてPDFデータとして配信した。今後もよりよいものを目指して改善していきたい。



【令和元年度・教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）報告書（初等教育学科37期生）】

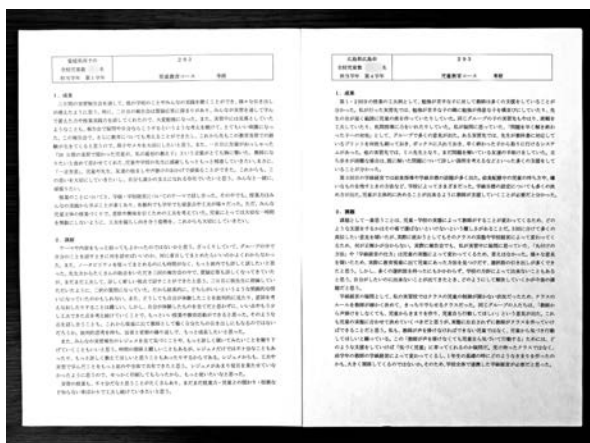
実習報告会は、例年通り3コマ実施した。下級生・上級生も参加していたが、人数的には少なかった。少数ではあったが、他学年の学生は熱心に参加する様子が見られた。発表には、iPadを活用しており、視覚的にもわかりやすいものであった。討議・質疑応答については、回を重ねる毎に討議内容などを修正し、充実した内容となった。司会者にも議論を活性化させるための工夫が見られた。実行委員会が受講生全員を対象とした事前調査では、褒め方・叱り方などといった2年次前期に行われる教育実習Ⅶ（観察実習）で扱われるべきテーマも散見された。11月27日に行われた教育実習Ⅱ・Ⅲ報告会事前説明会ではそのテーマのまま行うつもりでいたが、1日目を終えた時点で実行委員会が話し合いを行うとともに、昨年度の実行委員である4年生からも助言があった。その結果、教育実習Ⅱ・Ⅲに相応しいテーマ、実践者としての自分たちに焦点を当てたテーマに改善していった。臨機応変に対応できる実行委員であった。報告会の反省点は、今後活かしていきたい。



【令和元年度・教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）報告会（初等教育学科37期生）】

実習報告会の終了後、例年通り「教育実習Ⅱ・Ⅲ報告会 振り返り冊子」を作成した。全3回の報告会で出た参加者からの質問に対する回答なども記述されており、充実した内容となっている。今年度は、振り返り冊子の印刷・綴じ込み（製本）を教員用のみに限定し、当該学生にはPDFデータとして配信することに改めた。

今後も学生の主体性・協働性を大切にしながら、よりよい方向へと支援していきたいと考える。



【令和元年度・教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）振り返り冊子の一部（初等教育学科37期生）】